

観光教育を核とした地域連携の推進による総合学科の魅力化・活性化

三重県立鳥羽高等学校
清水 豊

1 主題設定の理由

本校は国際観光都市、鳥羽市にある唯一の県立高校で、今年で創立 107 年目を迎える。学科や課程の改編などの変遷を経て、平成 17 年に三重県で 8 番目、南勢地域で唯一の総合学科高校となった。

本校では、約 6 割の生徒が就職の進路希望を持ち、総合学科の多様な教育活動や課外活動等を通じて成長している。一方で、基礎学力の定着、学習意欲や規範意識の涵養に課題もある。十分な自尊感情を持たず、仲間との良好な関係づくりが苦手な生徒も見られる。

地元の公立高校として地域から信頼される学校づくりをすすめるために、本校では地域の特性である「観光」を核とした地域連携の推進による学校の魅力化・活性化に取り組んでいる。本稿ではこれまでの本校の取組を報告し、成果と課題について検証したい。

2 研究のねらい

我が国においては近年「観光立国」が国策として推進されている。高校教育においても観光教育は今後の日本の産業・経済を牽引する人材を育成する重要な分野と位置付けられ、次期学習指導要領では商業教育における重要なテーマとして取り扱われると聞く。

本校では、「観光教育」を狭義のビジネスとしての観光や人材育成のための観光と捉えるのではなく、「観光教育を核とした」地域連携や地域学習を念頭に置いている。観光そのものを学ぶのではなく、観光を切り口として、生徒が地域に関心を持ち、地域の課題について考え、地域に貢献していくことをめざす。地域の方から話を聞き、地域に出てフィールドワークを行い、調べたこと考えたことをまとめ、発表・発信することで、生徒の総合的な学力を向上させ、本校の課題である生徒の自信や自尊感情を育むことをめざす。

3 本校の取り組み

(1)観光教育・地域連携を意識した教科等での学習活動

①「産業社会と人間」における地域学習

平成 26 年度より地域学習の意識づけを行うために新入生研修会として鳥羽市の離島である答志島でのフィールドワークを実施している。当初 2 年間は地域のボランティアガイドの協力を得て島内の散策を行う形だったが、28 年度以降は島内の各ポイントをグループで回り、写真を撮影したり、指示された問いに答えるというオリエンテーリング形式で行っている。昼食は答志島の特産であるわかめ、たこ、ちりめんじゃこなどを使った調理体験である。九鬼水軍ゆかりの史跡や海女小屋等を巡り、島の食文化に触れて、離島の文化や歴史を学ぶことは、鳥羽市外から入学する生徒が 7 割を占めるようになった現在、新入生にとって新鮮な体験であり、事後レポートでも肯定的な意見が多い。また、入学間もない中でクラスの親睦を深めるよい機会にもなっている。高校生活のはじまりにこのような体験活動を実施することはその後の地域学習への興味・関心や意欲を高めることにつながっている。



答志島フィールドワーク

②観光ビジネス系列 2 学年「地域研究」

観光ビジネス系列の学校設定科目「地域研究」では、「地元鳥羽市の歴史文化や産業を学ぶ」こと

から学習をはじめ、地域の抱える様々な課題について考えることをめざし、体験的な学習活動を行っている。基本的な授業スタイルは《事前学習→専門家の講義・フィールドワーク→振り返り》の形である。

フィールドワーク先としては「鳥羽市立海の博物館」「鳥羽水族館」「大庄屋かどや」「鳥羽城址」等、鳥羽市の地域資源を活用し、それぞれの訪問先で地域の方や専門家に講義をしていただき、振り返りでレポートにまとめる。

29、30年度は鳥羽市商工会議所と連携して、地域の観光宿泊業について学ぶ活動を取り入れている。地域の観光ホテル等の見学、ホテル職員との意見交換、地域食材を活用した料理メニューの開発等、地域の観光宿泊業の抱える課題について、高校生の視点から考え、提案する取組を行っている。

一連の活動を通して、生徒だけでなく、教員自身も地域学習から気づきを多く得ることができるとともに、地域のさまざまな分野で活躍されている人との関わりの中から教材や外部講師人材のリソースを得ることができ、年々授業内容の幅が広がっている。

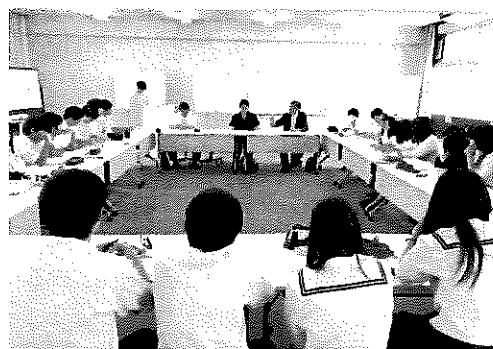
③文理進学系列2学年「鳥羽学」

文理進学系列の学校設定科目「鳥羽学」では、様々な視点から鳥羽について学ぶことをめざす。授業は国語・社会・理科・英語の4教科の教員が担当し、それぞれの教科に関連した視点から地域学習にアプローチしている。例えば国語では神島を舞台とした三島由紀夫の『潮騒』について学習し、実際に神島を訪れて小説を実感するフィールドワークを行う。社会では「海の博物館」「海女文化資料館」を訪れて海女文化について学習したり、「鳥羽城址」を訪れて鳥羽の歴史や文化を学ぶ。理科では鳥羽の最も重要な資源である「海」の環境を学び、港で採取した海水のプランクトンを調査する。英語では、鳥羽の代表的な観光・文化施設や史跡などを外国人観光客に英語で説明できるような学習に取り組む。授業を複数教科の教員で担当することで、教科横断型のカリキュラムマネジメントの実践の場となっている。

今年度からは内容を一新し、鳥羽市役所と連携して、地域課題解決・提案型の授業をスタートした。鳥羽市の抱える様々な地域課題を学び、その解決に向けて高校生の視点からの提案・提言を行う活動である。今年度は、鳥羽市の旧中心市街地で昔は活気があったが、現在は空き店舗等が多く寂れてしまっている「なかまち」の活性化をテーマとし、地元住民団体「なかまち会」と協議を重ねながら、空き店舗を活用した「高校生カフェ」やSNSを活用した情報発信等に取り組む予定である。

④デュアルシステム

29年度より観光ビジネス系列と総合福祉系列の3年生でデュアルシステムを実施している。デュアルシステムとは、年間を通して企業等で職業体験を行い、それを授業の単位として認定するシステムで、本校では毎週金曜日に鳥羽市内の観光関連企業や福祉施設等で実習を行っている。多くの企業や施設の協力のもと、鳥羽市の基幹産業である観光現場での実習を通じ、これまで以上に地域と学校が連携して生徒を育てる環境や意識の向上が期待できる。



「地域研究」ホテルマンとの意見交換会



市内観光ホテルでの実習風景



市内福祉施設での実習風景

(2) 観光教育・地域連携を意識した生徒の活動

① 地域研究サークル「とばっこくらぶ」の活動

平成 27 年度に地域研究サークル「とばっこくらぶ」が発足した。とばっこくらぶではフィールドワークを中心とした地域学習に取り組んでいるが、さらに地域の魅力を発信する活動にも積極的に取り組んでいる。特に活動の中心となっているのは「観光ガイド」の活動である。27 年度に三重県で開催された「全国産業教育フェア三重大会」で「とばっこバスツアー」という鳥羽のまち歩きツアーを企画・開催し、県内外の 50 人以上の参加者に鳥羽の魅力を伝えた。これを皮切りに 28 年度から鳥羽市教委の人材育成講座「地球塾」と連動して実際の観光客に観光ガイドを実施し、29 年度に伊勢で開催された「全国高等学校観光教育研究大会」でも、全国から参加した観光教育に関わる教員にガイドツアーを実施した。また後述の県外高校との交流活動でもガイドを行っている。

また今年度は鳥羽市役所定期船課と連携して、路線バスを使った鳥羽市内観光プランの企画にも取り組んでおり、企画したプランの案内チラシを作成して鳥羽駅前のバスターミナル等に設置する予定である。

② 「観光甲子園」への挑戦

「観光甲子園（正式名称：全国高等学校観光選手権大会）」は平成 21 年に始まった高校生による「地域観光プラン」を競い合う大会で、企画の書類審査を通過した上位校が決勝大会でプレゼンテーションを行う。本校は 25 年度より取り組みを開始し、「とばっこくらぶ」の活動の中で取り組んでいる。27 年度には「答志島の寝屋子制度」をテーマとしたプランで予選を突破し決勝大会でも優秀賞を受賞した。29 年度も「相差と海女」をテーマとしたプランで 2 度目の予選突破を果たし、決勝大会で銅賞を受賞した。30 年度は残念ながら 13 位で決勝大会には出場できなかったが「審査委員長特別賞」を受賞した。

大会で賞を取ることが目的ではないが、予選突破をめざして地域学習やフィールドワークを重ね、チャレンジし続けることで、積み上げてきた知識やノウハウが後輩に伝えられ、新たな取り組みの礎となる。また、甲子園への出場により、鳥羽市における本校の活動の認知度が向上し、連携や支援の輪が広がっていくなど、観光甲子園への取組は本校の観光教育、地域学習の広告塔的な意味合いを持つようになってきている。全国大会への出場を通じて地域から注目され、評価されることで、発表する生徒だけでなく、他の生徒にとっても鳥羽高の生徒として「やればできる」という自信と自尊感情の向上につながっている。



観光甲子園決勝大会でプレゼン

(3) 観光教育を推進する県外高校との交流活動

本校は平成 25 年より全国高等学校観光教育研究協議会に加盟している。それを機に観光教育に取り組んでいる県外の高校との交流が始まった。

① 岐阜県立益田清風高校との交流

益田清風高校は下呂市にあり、本校とは対照的に山間地に位置することから、27 年度より「海と山との交流」として相互に生徒有志が訪問して交流活動を行っている。

8 月に益田清風の生徒が鳥羽に、2 月に鳥羽の生徒が下呂を訪れ、アクティビティ体験を通じて交流する。また、この交流をきっかけに部活動の交流も始まり、本校ソフトテニス部が下呂市で合宿をし、益田清風のソフトテニス部と合同練習を行っている。

② 宮城県松島高校との交流

松島高校は宮城県松島町にあり、平成 26 年度より「観光科」



松島高校生徒への観光ガイド

が設置されている。海の観光地に位置する学校同士として 27 年度より交流が始まった。観光科の修学旅行（研修旅行）の一環として京都、伊勢志摩を訪問する行程の中の日を本校との交流に充てている。交流内容はとぼっこくらのガイドによる鳥羽のまち歩きツアーと鳥羽高校での交流行事である。

③愛知県立福江高校との交流

福江高校は愛知県田原市にあり、平成 30 年度より観光ビジネスコースが設置された。伊勢湾の対岸に位置しフェリーでの往来が可能であるため、本年度より交流をスタートした。8 月に本校生徒が福江高校を訪問して防災活動を通じて交流、10 月には福江高校が遠足で鳥羽を訪問し、本校ととぼっこくらの生徒がガイド活動で交流した。また野球部の交流試合や合同練習を行うなど、学校行事、部活動など、幅広い交流活動を継続していく予定である。



福江高校の遠足でのガイド活動

4 成果と課題

【成果①】生徒の成長

地域に関わる様々な学習や地域の大人とのかかわりを通じて、地域の方から評価されたり、ほめられたりする場面が確実に増えた。学力的に課題を抱える生徒が多いことに変わりはないが、こうした肯定的評価により自信を持ち、自尊感情が高まる。それと呼応するように、観光教育や地域連携の推進に取り組んだ平成 25 年度以降、生徒指導上の問題行動は目に見えて減少し、学校は落ち着きを取り戻している。

【成果②】地域からの評価

生徒が地域の中に出て行く場面が増えたことにより、鳥羽高生が地域の方たちの目に触れる機会が多くなり、本校の教育活動への関心が高まってきた。これまでの「荒れた鳥羽高」のイメージが徐々に払拭され、「がんばっている鳥羽高」に変わりつつある。行政や産業界から一定の期待を寄せられるようになり、様々な場面で連携や支援が得られやすくなってきている。

【成果③】教員の成長

観光教育を核にした地域連携をめざしてカリキュラムの改編や授業づくりをすることで、個々の実践が教科や系列を越えてつながりを持つようになった。地域のさまざまな分野の人や行政、関係団体等との協議や折衝の機会も増し、アクティブ・ラーニング的な学習活動やカリキュラム・マネジメントを意識した教育活動につながる教員自身の成長が見られる。

【課題】理念の共有、人材育成、組織としての取組体制の確立

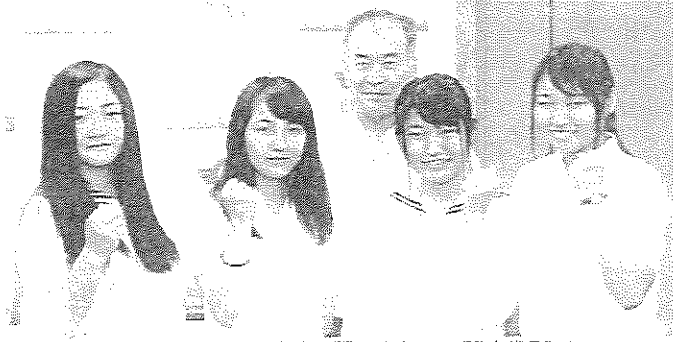
観光教育は歴史が比較的新しく、学習指導要領等でも今後重要視されていく分野であるとは言うものの、認知度はまだ低い。本校でもこの数年試行錯誤しながら実践を積み重ねてきたが、現時点では取組は進みつつも、理念が十分組織内に浸透しているとは言えない。今後、さらなる学校活性化を進めていくためには、本校が立地している地域の基幹産業である「観光」とのつながりは不可避である。そのような理念を学校全体で共有し、意識する必要がある。

また、県立学校には人事異動があるため、現在中心となっている教員が異動しても学校の教育活動として継続していくための、人材育成も急務である。これまでの実践やノウハウを、水平展開して個人としてではなく組織として継続して取り組むことができるしくみを確立しなければならない。

これらの課題を念頭に、今後も職員力を合わせ、生徒も教員も地域も輝く実践を行いたい。

観光甲子園 優勝狙う

鳥羽高海女の旅提案



決勝へ意欲を見せる鳥羽高生ら＝鳥羽市役所で

全国高校観光選手権（安楽島町）の地域研究大会（通称・観光甲子園）の決勝大会に二年ぶり二回目の出場を決めた鳥羽高校（鳥羽市）市長らに意欲を語った。

地域の観光プランを競い合う観光甲子園には、全国四十二校から八十四件の応募があった。審査の結果、鳥羽

高の「Wanna Be TOBAShien」が七位となり、上位八校が進む決勝へ。決勝は神戸市で八月二十四日に行われ、十二分間のプレゼンテーションで順位を競う。

鳥羽高からは部長の世古裕菜さん（二）をはじめ、勢力亜海さん（二）、山川華菜妃さん（二）、藤田李奈さん（三）のいずれも三年の四人が出場する。「海女さんと相差のまちから感じる、五感の旅」をテーマに、鳥羽市相差町の海女や旅館に焦点を当てた。

プランは、海女小屋での交流や旅館のおもてなし、神明神社などを軸に作成した。御朱印帳を参考にした「ハッピーブック」を用意し、すべてを回ると海女のお守り「ドーマンセーマン」の形になるという。

決勝では、劇方式のプレゼンを検討。写真などを織り交ぜ、海女の魅力を紹介する。世古さんは「最善を尽くしたので、発表が楽しみ。優勝したい」と意気込み、勢力さんも「少人数でアイデアを出し合い、いいものができた」と自信をのぞかせた。

中村市長は「心から鳥羽を見てほしいという気持ちで伝わってきた」とエールを送った。

（西山和宏）

「観光甲子園」出場の紹介記事

2017.8.1 中日新聞

鳥羽高とばっこクラブ

岐阜の高校生に海の街をガイド

鳥羽市の県立鳥羽高校・地域研究サークル「とばっこクラブ」の部員3人が4日、岐阜県下呂市の益田清風高校・観光産業系列の生徒4人を案内し、市内の街歩きを楽しんだ。

とばっこクラブは昨年8月、高校生が地域の観光プランを競うコンテスト（通称「観光甲子園」）の本選に出場。同コンテストの常連校の益田清風高校と情報交換したことから交流が始まった。今年7月に1泊2日で部員4人が下呂市を訪

れ、益田清風高校の生徒の案内で温泉街の街歩きなどをした。

今回は、益田清風高校の生徒に海の街の楽しさを紹介しよう



と、1泊2日の日程で招待。3日に鳥羽市の離島・富志島で海水浴や釣り、ひもの作りなどを、4日には、江戸後期から明治・大正期にかけて隆盛を極めた、鳥羽大庄屋かじや

「写真II」と鳥羽城跡の城山などを案内した。街歩きは熱い日差しの中で行われたが、益田清風高校の生徒たちは「海の体験も楽しかったし、街歩きでは、知らないものをたくさん見ることができてよかった」と話した。

とばっこクラブを指導する鳥羽高教諭の安田恵理さん（36）は「高校生たちが鳥羽の魅力作りに役立つよう、本格的なガイドの練習を重ねたい」と力強く語った。

（茂）

「ガイド活動・県外高校との交流」の紹介記事

2016.8.18 いせ毎日